



九条の樹

東久留米「九条の会」ニュース 第39号

2012年6月発行・東久留米「九条の会」

代表者 古田足日・連絡先 鈴木Tel. 042-473-9489

<http://members3.jcom.home.ne.jp/higashikurume9/>

戦争ぜったいやだから！ 東久留米「九条の会」

戦前回帰の自民党改憲案

西部九条の会・矢倉 久泰

「内閣総理大臣を最高指揮官とする国防軍を保持する」——自民党が4月27日に発表した「憲法改正草案」は、こう規定しました。サンフランシスコ講和条約発効から60年目にあたる28日に合わせて発表したそうです。28日は戦後日本がアメリカの支配下から独立した日（沖繩がアメリカの統治下になった日でもあります）。自主憲法制定を党是とする自民党は、この日を自主憲法案の発表にふさわしいと考えたのでしょうか。

自民党はすでに2005年11月、結党50周年にあたって「新憲法草案」を発表し、自衛隊を「自衛軍」とすることなどを規定しました。これに対して、改憲の旗振りをする自民党の長老・中曽根康弘元首相は「穏健すぎて自民党ら

しさに欠ける」と批判したため、今回は一段と戦前回帰を強め、「国防軍」になったのです。そして集団的自衛権の発動を可能としました。

もし、自衛隊が「国防軍」になったとすると、マスコミは「軍」や「軍人」という言葉を当然使うことになるでしょう。おぞましいことです。

草案は天皇を「元首」とすると明記しました。これも戦前回帰です。

「緊急事態条項」を設けているのも問題です。外部からの武力攻撃、内乱、大規模な災害などの緊急事態が発生すると、首相は国民の自由や権利、財産などに制限を加えることができ、これは憲法を逸脱するものです。

「国防軍」といい、「外部からの武力攻撃」といい、自民党はどこかの国が日本に攻めてくると思っているのでしょうか。いま世界は経済をはじめ、あらゆる面で国際交流が盛んになっており、他国への攻撃は自国の不利益につながりません。国家間のトラブルは武力でなく、話し合いで解決する、だからもう武力はいらないのです。それを基調とした平和憲法を世界に広めることこそ、いま日本に求められているのです。



草土文化社刊 1983年
「ギャグの神様」も、戦争と軍隊だけは「これでいいのだ」と受け入れることを拒んだ。

戦争、人間、そして憲法九条 ①

2010年9月25日

東久留米九条の会5周年の集いでの品川正治さんの記念講演の内容を紹介いたします。品川さんは経済同友会終身幹事という財界人の仕事をしながら、ご自身の戦争体験を踏まえ憲法九条を守ることを著書や講演で訴えています。



旧制三高時代のこと

ただいまご紹介にあずかりました品川です。少し私の自己紹介をさせていただきます。

私は1924年の生まれであります。現在86歳を迎えております。福沢諭吉の言葉を借りれば、「一身にして二生」を

送った人間でございます。最初の22年は大日本帝国憲法の下で、天皇陛下の赤子として、臣民の一人として生きてまいりました。あとの64年は新しくできた日本国憲法の下で、主権者の一人として日本国民の一人として生きてまいりました。

ただ先の22年は物心ついたころから戦時中、戦争中でした。私が小学校に入りましたその年に、満州事変が起こりました。これは15年戦争といわれる戦争の最初でした。中学校に入学いたしましたその年に、日中戦争が始まります。高等学校に入りました年すでに太平洋戦争が始まっておりました。高等学校は私は京都の三高でした。それまで高等学校は青春を謳歌する場所でありましたが、私が入学した年に徴兵猶予がなくなりました。大学を卒業するまでは兵役を猶予するということなのですが、それがなくなりました。一浪、二浪、三浪というのがクルスの半分を占めておりましたがその人たちは、いつ召集を受けてもその覚悟は十分しておる、というそういう時代でした。

ただここにいる皆様はちょっと想像つかないと思うんですが、学校当局はものすごく寛大で、かつ生徒思いでした。授業が終わりますと先生のほうが、深々と生徒に向かってお辞儀をされる。これだけの教室でも同じ格好でございます。しかも授業の内容に関係なく、授業が終わる直前のお話というのは、先生が自分の真情を込めた、学科に関係なく、必死になつて生き方を説かれるというのが、どの教室でもおこなわれました。

もう一つ。私の高等学校は授業をやめてしまったわけです。休講にする。その代わり死ぬまでに学生が聞きたがつているあの先生の聲咳に接したい、そう思う先生方の講義を続ける。こういう英断を下しました。と申しますのは、いずれ近いうちに軍需工場への勤労働員か、あるいは戦地への召集かに決まっている。死ぬまでに聞きたい先生をどこからでも呼んで見せると決意された。授業をやめてそういう先生方を呼んで、授業を始められたんです。

私にとつて忘れられないのは、当時日本の詩人界を代表する三好達治という詩人がおられました。この三好さんの話を

聞きたい、そういう学生が非常に多く、学校がお呼びしました。たまたま私はお呼びする役割をおおせつかつて、福井の田舎に蟄居して詩作に専念しておられる先生をお尋ねして、趣旨をお話してご出席をお願いしました。先生は喜んで出ていただきました。

ただほかの先生方と違って一度も講壇にたつて授業をすることのなかった方です。前年に「春の岬」という詩集を出されて、その一首、一首をご自分で解説していくという講義の内容でした。第一首から始まって最後の詩までなぜ、どういう気持ちを含めてこの詩をつくったかということ、諄々といいいに説明願いました。

先生は羽織袴の姿でした、五日間にわたる講義の最後の日に「これで私の講義は終わります」と言われたとたん、壇上で激しく号泣されました。最後はしゃがみこんでしまいました。

ただお泣きになっておられる間に口走っておられることは「君たち若い人たちは死なせて俺が詩が作れるか」そうおっしゃって泣いておられるんです。私はお呼びした責任者として何とか先生を

なだめて教員室にお連れ申し上げたつていうこの記憶は、旧制三高時代を思い出した際に私にとつて忘れられない事柄であります。そういう雰囲気だったんです。

軍隊に召集されて

私の場合二年生の秋、召集令状を受け取りました。十二月一日鳥取の連隊に入隊いたしました。ところが入隊したその日、私はかなりのショックを受けました。

九時に兵門をくぐつて、新しく与えられた軍服にほとんどの人が着替えて着おわつたちようどそのころ、連隊全体に響き渡る非常呼集という、ラッパがなつたわけなんです。一体なんだろうと思つていましたら、将校の一人が入つて来られて「お前達はとにかく新しい軍服を着て新しく支給された武器を持つて、兵庭に並べ。まだ名前もどういふ序列で並ぶかということも一切知らないだろうけれど

も、兵庭に一本白い太い線が長く引いてある。その端から端まで全員で間隔を取つて並べ」そうおっしゃつて出て行かれた。われわれは取るものもとりあえず、兵庭に並びますと、驚いたことには三千数百名の連隊全体の将兵が、私たちに對

面する格好で整列しておられるわけです。いったい何事が起こつたのか。そこへ連隊長が、やおら壇上にとがられて極めて簡潔な訓示を三千数百名の将校、下士官、兵にむかつてされたんです。「お前達は、今朝入隊した、この前に並んでおる現役兵の顔をよく見て、心に刻んでおけ。この男達は死に行くんだ。今日入つた現役兵、これをいじめたり、殴つたりする将校、下士官、兵がおるならば即座に処分するぞ」そうおっしゃつて降壇された。私たち現役入隊した人間にとつては、心の中で皆戦死は覚悟しております。しかし軍隊内部で「この男達は死に行くんだ」と言われたことに關しては、言うに言われない強いショックを受けました。しばらくは誰も口を利けないようなショックでした。

案の定。鳥取におりましたのは、ちょうど二週間でした。二週間たつたらすぐに前線に送られていったわけです。私の前線というのは、中国の当時北支と呼ばれていた中国北部です。黄河を渡つて西へ西へと行つて陝西省に近い、それこそ本当の最前線でした。

―次回に続く―

(鈴木)

東久留米市内の九条の会紹介

南部九条の会

今年11月で発足から6年となります。会員数は約100名。活動地域は南沢、ひばりが丘団地が中心となります。

発足以来、映画の上映(全市むけ)、講師を招いての勉強会、戦争を語る会(地域むけ)などを開いてきました。また、不定期ながら、会報「九条の輪」を発行しています。

月1回の定例会には毎回8〜10人程の方が参加し、憲法をめぐる情勢、時どきの社会・政治の動きを話し合っています。談論風発、皆さん活発に発言し、相互啓発、情報交換の場となっています。

今後の会の活動として「憲法9条」の大切さを地域へはたらきかけること、地域イベントなどを通して会の存在をアピールしていきたくと考えています。その一環として、現在ホームページの立ち上げを準備しています。

ます。

連絡先 042-475-3290 (高橋)



会報「九条の輪」

お知らせ

◆東久留米「九条の会」7周年のつどい!

6月30日(土)

午後2時(開演)〜4時半

まろにえホール

(東久留米市立生涯学習センター)

協力券 500円

(高校生以下・障がい者無料)

★アーサー・ビナードさん

講演「一流の憲法と三流の政治家のフシギな国」

★カーミーズ(沖縄出身・東村山市在住)

沖縄の心「命どう宝」を胸に平和な沖縄を目ざしたいと歌い始めたファミリー・バンド。

◆ピースの木

「Tシャツ100人展」vol.4

7月16日(月・祝)〜20日(金)

10:00〜18:00

スペース105

090-9333-1810 (森田)

◆西部九条の会 夕涼み会

劇映画「沖縄」第一部

「一坪たりともわたすまい」上映と懇親会



8月5日(日) 午後6時半から

滝山団地一街区集会所

参加費500円(飲食有り)

472-3757 (草川)

◆「憲法を日本の力に」

東京の「九条の会」大交流会

7月1日(日) 10時〜

正則高等学校(港区芝公園3-1-36)

主催・九条の会東京連絡会

03-3518-4866

《平和を考える本》

「モーツアルトはおこわり」

マイケル・モーパング・作

(岩崎書店)



世界的バイオリニストのパオロ・レヴィは、モーツアルトを演奏しないことで有名だった。理由は、かつて両親が遭遇したナチスの強制収容所での出来事からだ。両親は音楽家であったために虐殺を免れた。代わりにふたりは、収容所に次々に送りこまれてくる同胞のユダヤ人に、怖いことはない、歓迎するよといったムード作りのために毎日ヴァイオリンを弾かされた。二十四時間、煙を吐き続ける遺体焼却場の前で、明るいモーツアルトを演奏し続けた。

レヴィが、封印を解いてモーツアルトを演奏したのは、両親が亡くなって後のことである。

(高田)